

# 学習指導案の形式（例） 小学校生活科

## 第○学年○組 生活科学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名 ○○○○○○○○

◇まとまりをもった教育内容の単元の名称を書く。

2 単元の目標

例：○○を通して、○○をもって働きかけ（「思考力、判断力、表現力等の基礎」に関する目標）、○○に気付き（「知識及び技能の基礎」に関する目標）、○○ができるようにする（「学びに向かう力、人間性等」に関する目標）。

◇学習指導要領の目標及び内容を踏まえて設定する。  
 ◇育成を目指す3つの資質・能力を位置付けて、一文で書く。  
 ◇児童の立場で書く。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	例：～に気付いている。	例：～をもって働きかけている。	例：～しようとしている。
小単元における評価規準	1 ①	◇単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を設定する。 ◇1内容で1単元を構成する場合は、学習対象や学習活動に応じて、単元の評価規準を設定する。 ◇複数内容で1単元を構成する場合は、学習対象や学習活動に応じて組み合わせたり、融合したりして単元の評価規準を設定する。例えば、地域の公園に行き、生き物と関わる活動であれば、「(3) 地域と生活」と「(6) 動植物の飼育・栽培」の複数内容で1単元構成される。この場合、それぞれの内容の評価規準を設定するのではなく、「生き物探しをする中で地域の人が公園を管理していることに気付く」といった児童の活動を踏まえて評価規準を設定する。	
	2 ②		
	3 ③		
	④例：～気付いている。	②例：～表現している。	③例：～に関わり続けようとしている。

◇学習対象や学習活動に応じて、小単元における評価規準を設定する。

4 指導と評価の計画（全○時間）

小単元名（時間）	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法
1 ○○○（○時間）	例：・～について知る。 ・～について話し合う。	[観点①]（方法） ○例：～している。
2 ○○○○（○時間）	◇児童の学習活動を明確に位置付け、具体的な指導計画を小単元ごとに書く。 ◇児童の立場で書く。	◇「3 単元の評価規準」の中にある「小単元における評価規準」の観点と一致させ、番号でつなげて書く。 ◇学習活動や配当時間に応じて、重点的に評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。
3 ○○○○（○時間）		

5 指導上の立場

- 単元観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国及び県学力・学習状況調査との関連

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観…取り上げる単元の内容、既習事項との関連、今後の展開、その単元を取り上げる意義、単元・教材と児童の関係等を書く。
- ◇児童観…児童の興味・関心・意欲、単元に関する知識・技能、前単元までの実態や本単元で育てたい望ましい児童像等を書く。
- ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、児童のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。
- ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に書き、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。
- ◇全国及び県学力・学習状況調査との関連…現状と課題、課題についての取組等を書く。

6 本時案（第○小単元 第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができる。

- ◇「2 単元の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇児童の立場で書く。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ◇児童の立場で書く。	○ ◇指導者の立場で書く。	◇児童の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。 (2) ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	めあて ◇児童の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。  ○例：～することで、～できるようにする。  ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・児童が主体的に学習を進めるための手だて ・児童が対話的に学習を進めるための手だて ・児童が学習を深めるための手だて ・児童一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される児童の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手だてを書く。	◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。抽象的な文言ではなく、実際に評価可能なレベルまで具体化する。 ◇評価の場面は1、2箇所に絞る。 ◇文末には、評価の観点と指導事項を記号で明記する。 ◇評価方法を具体的に書く。
3	○	○例：～している。
4	○ まとめ ◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。 ◇まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置付ける	〔評価の観点〕 〔評価方法〕 ◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・学習カードの記述 等
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿の例

◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿について、想定される児童の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な児童の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。